

琉球大学学術リポジトリ

第2部自己点検・評価の結果

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学大学教育センター 公開日: 2018-08-01 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/42150

終章 本学における共通教育等の改善・改革方策

本章では、第Ⅱ部に示された本学における共通教育等に関する自己点検・評価結果の中から、今後の改善・改革方策を各章ごとに拾い上げて提示する。

今後は、琉球大学長及び大学教育センター長のリーダーシップの下、これらの提言を踏まえた絶えざる改善・改革を押し進めていくことが肝要である。

第1章 理念・目的・教育課程

- ① 今後も、教養教育の理念・目的の視点から共通教育等の改善・改革を進めていく
- ② 「高学年次総合科目」のあり方を再検討する
- ③ 「日本語表現法入門」の授業内容の見直しをする
- ④ 共通教育等科目の理念・目的の沿った授業科目が開設できるよう人員の再配置を検討する。
- ⑤ 大学教育を受けるに必要な基礎科目を取得しないで大学に入学してくる学生への対応をする。
- ⑥ 授業案内やシラバスの意味や利用方法の説明をする。
- ⑦ 開設されている授業科目については全て授業案内に掲載する、特に、夜間主コースへの提供科目については早急の対応を
- ⑧ 授業案内をインターネット上へ掲載する
- ⑨ 15回の授業について1回ごとに内容を明示できるよう授業の構成を改善していく
- ⑩ 授業案内に提示した内容に沿った授業が行われるよう自己改革に努める。
- ⑪ 現在は、授業案内と授業計画（シラバス）を合わせたかたちで情報を提供しているが、教員の教育指標であり、学生への授業外の学習課題の提示でもあるシラバスがどのように活用されているのかを調査する
- ⑫ 共通教育等科目を正規学生以外にも開放する努力を
- ⑬ 専門教育と共通教育等との有機的関連性をはかっていく
- ⑭ 今後も、多様な観点から学生を選抜し、きめ細かい教育を行っていく。そのために共通教育等に課された課題を再認識する

第2章 授業（1）－教員に関すること－

- ① 理念シンポジウムを開催する
- ② 草の根レベルの教員の取り組みをFD活動まで引き上げる
- ③ 「プロフェッサー・オブ・ザ・イヤー」を実施する
- ④ 「プロフェッサー・オブ・ザ・イヤー」検討委員会を発足させる
- ⑤ 「ポイント制」導入を検討する
- ⑥ 論理的思考力などを身につけさせる取り組みを行っている教員の実践紹介を行う
- ⑦ バーチャル・ユニバーシティ・ワークショップを開催する

第3章 授業（1）－学生に関すること－

- ①学生に共通教育の理念を知らせ、理解させることによって、共通教育に対する学生の期待および意欲が高まることが考えられる。大学教育センターとして、理念を知らせ理解させる努力をする必要があるだろう。
- ②学生が身につけたいと考えながらも、実際にはあまり身につけていない能力として「情報処理能力」と「語学力」がある。この両方については特に、大学教育センターとしても、引き続き十分に支援していく必要があるだろう。
- ③学生は基本的には、大教室の大人数の授業に対しては不満を抱きがちであるが、他方、とりたい授業がとれるようにするためであれば、大教室の大人数の授業もやむを得ないと考えている者も少なくない。相反する面の強いこの二つの要望にどう答えていくのか、検討が必要であろう。
- ④学生が求めている共通教育担当の教員像は、分かりやすくかつ役に立つ授業を行い、授業への造詣が深くまた熱心で、学生の立場に立って質問等によく耳を傾け、暖かく親切で、ユーモアがあり、倫理観を身につけている教員である。大学教育センターとして、そのような期待される教員像を教員に知らせる必要があるだろう。

第4章 施設・設備

- ①わかりやすく情報提供する工夫をする
- ②教員や学生が意見を言えるルートを確保する
- ③視聴覚教室の教室割り当て方針を再検討する
- ④机が移動できる教室を確保する
- ⑤教室に視聴覚機器をすえつける
- ⑥理念を再考した上で、特殊教室（実験室、LL教室、情報処理教室、運動場）の拡張を検討する
- ⑦図書館が、夜間主コース対応を推進する
- ⑧もっと広いスペースを持ち、同時に複数の教員が学生指導などを行える非常勤講師控室を設置する

第5・6章

- ①「全学出動方式」の意義を議論する機会を提供し、このような教官の意識改革をもたらすようなFD活動などを実施する。
- ②外国語科目等のクラスにおいて受講学生数が極端に少ない状況が続く場合には、クラスを統廃合して適正規模のクラスを作り効率的なカリキュラム運営を行う。
- ③科目の目的に合致しない授業が行われているとの指摘が合った場合には、該当する科目企画委員会で実態を調査し、必要に応じて改善改革を行う。
- ④日米教育委員会のフルブライト招聘講師制度は今後も活用する。
- ⑤大学教育センターの事務を担当している学生部教務課の現在の人員で今後予想される業務の増加に十分に対処できるか検討する。
- ⑥学生向けの掲示をする場所を増やす。各学部へ依頼して、学部掲示板でも掲示がで

きるようにする。

- ⑦インターネット上での広報・事務連絡を行うようにする。電子メールによる事務連絡を増やす。
- ⑧『大学教育センターニュース』と『大学教育センター報』の発行回数を増やす。
- ⑨常勤・非常勤の教員が参加するFD活動をさまざまな方向に拡大発展させる。
- ⑩トップダウン型のFD活動に加えて、ボトムアップ型のFD活動を推進する。
- ⑪学部と提携して、科目群（系）ごとのFD活動を推進する。
- ⑫授業評価の質問内容を見直し、自由記述欄を大きくする。
- ⑬学期半ばにも授業評価を実施することを検討する。
- ⑭学生による授業評価の効果を調査しその有効性を確認した後で、授業評価を組織的に活用する手段を検討する。
- ⑮授業評価に関するデータはさまざまな分析ができるようにして、長期保存する。
- ⑯共通教育等の改善に積極的な教員を評価し、その努力に何らかの形で報いることを検討する。
- ⑰（1・2年次）指導教官を対象としてFD活動を実施する。
- ⑱「総合英語演習I、II」のように連続性のある科目は後期にも「I」が提供できるようにカリキュラムを改善する。